

28日 木曜

申命記

25:1 人と人との間で争いがあり、彼らが裁判に出頭し、正しいほうを正しいとし、悪いほうを悪いとする判決が下されるとき、

25:2 もし、その悪い者が、むち打ちにすべき者なら、さばきつかさは彼を伏させ、自分の前で、その罪に応じて数を数え、むち打ちにしなければならない。

25:3 四十までは彼をむち打ってよいが、それ以上はいけない。それ以上多くむち打たれて、あなたの兄弟が、あなたの目の前で卑しめられなければならないためである。

25:4 脱穀をしている牛にくつこを掛けてはならない。

25:5 兄弟がいっしょに住んでいて、そのうちのひとりが死に、彼に子がない場合、死んだ者の妻は、家族以外のよそ者にとついではならない。その夫の兄弟がその女のところにはいり、これをめとつて妻とし、夫の兄弟としての義務を果たさなければならない。

25:6 そして彼女が産む初めの男の子に、死んだ兄弟の名を継がせ、その名がイスラエルから消し去られないようにしなければならない。

25:7 しかし、もしその人が兄弟の、やもめになった妻をめとりたくない場合は、その兄弟のやもめになった妻は、町の門の長老たちのところに行って言わなければならない。「私の夫の兄弟は、自分の兄弟のためにその名をイスラエルのうちに残そうとはせず、夫の兄弟としての義務を私に果たそうとしません。」

25:8 町の長老たちは彼を呼び寄せ、彼に告げなさい。もし、彼が、「私は彼女をめとりたくない。」と言い張るなら、



Bible Reference
聖書の記述

25:9 その兄弟のやもめになった妻は、長老たちの目の前で、彼に近寄り、彼の足からくつを脱がせ、彼の顔につばきして、彼に答えて言わなければならない。「兄弟の家を立てない男は、このようにされる。」
25:10 彼の名は、イスラエルの中で、「くつを脱がされた者の家」と呼ばれる。

「悪い」と判決が下された者に対しても、「卑しめられない」ようにするのが主の御心です。同じ人であり、神の前には同じ罪人であることを考えると、今も同じことが言えます。

「くつこ」とは口をふさぐ道具であり、「脱穀をしている牛に」掛けるなら、食べることができません。仕事をするものの権利として命じられています。新約でもパウロはこのところを、フルタイムの働き人のために引用しています。十分な報酬が尊敬として与えられるべきであるということです。

5節以下を見ると、神がいかに長子を尊重しておられたかが分かります。それは一族の平和のためでもあります、一方、神の長子であるイエス様を表すためでもあります。一族の中で長子を尊重することは、権威と秩序を守ることであり、それは女性への好き嫌いを超える重大事です。それが尊重できない人は恥を見ることになりました。

神が与えられた権威と秩序を尊重しましょう。また神の長子であられる御子イエスの権威と秩序を守りましょう。その点で恥を見ないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

